
復讐

チェット

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

復讐

【Nコード】

N7304Y

【作者名】

チエツト

【あらすじ】

いじめを受けた生徒がいじめた生徒たちに復讐する復讐劇を描いています。

彼女の残忍な復讐劇と、最後の標的との攻防戦を描きます。

五時間目（前書き）

少し残酷な描写があります。

さらに小説を初めて描くので、文が下手です。

それでも読んでくださるのならうれしいです。

一生懸命書きますのでどうぞよろしくお願いします。

五時間目

チャイムが鳴った。古ぼけた校舎に響き渡る。

「気をつけ、礼！」

五時間目の学活が始まる。

「今日は皆さんに話したいことがあります。」担任の佐々木はそう繰り返した。

「このクラスにはいじめがあります。ある生徒から相談を受けました。」

生徒たちの間から話し声が聞こえる。くすくすとした笑い声、ニタニタする生徒。佐々木は淡々と続けた。

「皆さんはもう誰か分っていますよね。」篠原美代子だ。暗く目立たなく、人を寄せ付けない雰囲気から亡霊といわれ、この八ヶ月、いじめを受けていた。彼女の味方をするものは誰もいなかった。

「私はこの相談を受けた時残念に思いました。」

生徒たちがくすくすと笑っている。だが次の言葉で生徒たちは静まり返った。

「いじめがあることではなく、このクラスの頭の悪さなんです。」シーンとした教室。

「いじめ？あなたたちにそんなことしている暇はあるのですか？三年生の八月に？バカバカしい。何をしているんですか？そんな子としている暇があつたら勉強してください。あなたたちの頭の悪さは以前から感じていました。ここまでとは思いませんでした。」生徒から怒号が飛ぶ。

「それでも担任かよ？佐々木先生よお！」

そういったのはクラスのリーダー的存在、中野雄太だ。

「あなた方に言われる筋合いなどありません。でも安心して下さい。篠原さんは支援教室に転入しました。これであな方も勉強に集中できるでしょう。障害がなくなっただんですからね。よかったで

すね、中野君。でも、あなたの今のHランクでは入れる高校はありませんので、いまさら遅いですね。」

生徒から驚きの声があがる。中野はもつと成績がいいのだとみんなは思っていたからだ。

「佐々木！何で俺の成績を公表するんだよ？守秘義務に反してるだろうが！」中野が叫んだ。

「あなたがそんな言葉を知っていたなんて驚きです。もう結構。最後に篠原さんからみんなに手紙があるそうです。八ヶ月のお礼ですかね？まあ、教卓においておくので読みたい人は勝手に呼んでください。あとは自習です。私は用事があるので、帰りの会は坂野先生にお願いしておきます。ではさようなら。」

そういうと手紙を教卓に置き去っていった。生徒たちがざわめきながら教卓に駆け寄る。そこには驚きの内容が書かれていた。

「三年一組の皆さんへ

みなさん・・・

五時間目（後書き）

不定期ですが、できるだけたくさん投稿します。
これからも一生懸命書くのでよろしければ読んでください。

学級委員長 杉下唯の証言1（前書き）

第2章です。

がんばるので長いですけど読んでいただけたら幸いです。

学級委員長 杉下唯の証言1

由香先生は無責任です。自分のクラスの生徒がいじめを受けているというのに支援クラスに転入させてバカバカしいだなんて。

私はあの先生を尊敬していません。いつかあんな先生になりたいとも思っていました。熱血ではなく、いつも冷静で、頭もいい佐々木由香先生。私の憧れでした。でも今日出でイメージは完全に崩れてしまいました。あの「手紙」の日から先生は学校に来ていません。副担任の坂田先生は、重大な用事があるといっていました。が果たしてそうなのでしょうか。

早くもう一度佐々木先生と話がしたいと思っています。一日も早く先生がああ「手紙」の内容を知らないのならなおさらです……。

私は「手紙」を呼んだ火からずっとしっぴかり寝れています。軽い不眠症です。私は、学級委員長としてこのクラスがはじまった時からあった篠原さんへのいじめを無くそうと努力していました。出来るだけ先生の力を借りずに、自分たちの手です。そうしてもし解決すればクラスの団結力は高まり、最高の卒業式を迎えることが出来ると思っただけです。何人かの人も私の取り組みに協力してくれました。

ですが解決することは出来ませんでした。彼がいたから……。

中野君です。

彼は男子全員や一部の女子のリーダーでした。クラスを取り仕切り、彼に嫌われた人はみんなに嫌われました。

私は思います。彼がいなければ、最高の三年一組になれたと。

はじめて篠原さんをはじめたのも中野君でした。消しゴムの切れ端を投げつけたのです。

「おまえ、暗くて三年一組のイメージダウンなんだよ！」

それを見た彼の友達が同じように嫌がらせをしてクラスにいじめが広がりました

はじめは消しゴムから。次はノートの切れ端に死ねと書いて机に置き、次に頭に牛乳をたらし、ノートを全部捨て、彼女の机、いすを窓から投げました。

それでも彼女は何も言わずに淡々と固唾毛ティ他のです。何も言わずに。

先生、私は信じられません。本島に彼女は先生に相談したんですか？

私にはある嫌な予感がします。

もしかしたらこれは生徒たちへの、先生の思いやりなのかもしれな
いと……。

学級委員長 杉下唯の証言1（後書き）

どうだったでしょうか？

よろしかったら感想をください。

次回への励みになります。

生徒 中野雄太の証言1 (前書き)

続きです。

ぜひ読んでくださいね。

生徒 中野雄太の証言 1

俺は何でいじめをはじめたか忘れちゃったよ。でも、三年になつてからいまいち成績が取れなくていらいらしてたのは事実なんだよな。まあ、頭悪いのは小学校からだつたけど。

そうそう、俺は課のお玉のせいで親に何回殴られたことか。

「あんななんか生まれてこなければよかったのに！」

「何でこんな簡単な問題才解けないのよ！」

「お前は受験生なんだぞ？こんなパソコンなんかしている暇があるなら勉強しろ！」

弟の良太に向けてこんな子といつていたのも聞いちゃったんだ。

「おまえは兄とは違つて頭がいいな。私たち夫婦が待つていた子供はあんな出来損ないじゃ無くてお前みたいなお前なんだよ、良太。」

いくら父さんも母さんも早稲田大学卒業したからつて、そんな風に言わなくてもいいじゃないか。じゃあ、俺はなんなの？あんなたちが避妊しなかつたから出来た予定外の第一子？

俺はその日からはあちゃん家に住んでるんだ。無断で出て行つたよ。ばあちゃんは快く迎えてくれた。最初はね。でもやつぱりばあちゃんも自分が頭悪いことがわかつてくると、

「この居候！」とか言われたよ。だからそこからも出て行つた。しばらくは金持ちのばあちゃんの金を取つてきていたから、それで食つて、橋の下で寝ていたけどそれも夏休みまで。ずっとそうしてるわけにも行かなくて悩んでいたら、ちょうど通りかかった佐々木先生が声をかけてくれたんだ。

「中野君何してるの？」

俺は全ての事情を話した。すると先生は、

「とりあえず今は家に来なさい。あたしひとり暮らしたから。」

といい、二、三日泊めてもらった。「本当にそれで出て行くことと思つてたんだ。」

でも先生は、

「あなたは家に帰ったらまた魂をすり減らす生活になる。あたしの家においていいよ。」

と喋ってくれたんだ。

でもばあちゃんみたくなるのは嫌だから、と喋って出て行こうとしたら、

「わたしは貴方の生徒よ？あなたと学校にいつもいるのに家では迷惑だとは思わないわ。」

と喋ってくれたんだ。

うれしくてうれしくて涙が出たよ。ほんとうにうれしかった。

「ただしみんなには内緒よ？あと、夜、襲ってきたら追い出すからね。」

二人で笑った。

佐々木先生があそこまで学校と家では差があるとは重いもし無かったよ。学校ではあんなにクールで静かな先生なのに、家ではとても明るくて、いつも笑ってたなあ……。

そしてあんなに料理がうまいとも思わなかったよ。

学校では私に汚い言葉で怒鳴られて言ったのも先生なんだ。一緒に住んでいることを気付かれないために。

ほんとにうれしかったし、中三であんなきれいな先生で若い先生とすめるなんて興奮もしたよ。

今、先生は家にいない。

あの「手紙」の日。あの日から先生はメモ書きを置いてどこかへ行ってしまった。

「雄太君へ

今日はごめんね。あんな事言つて。本当に悪かったと思う。

でも雄太が関わっていたのはとても悲しかったよ。

私はしばらく大切な用事があるので家をあけます。

お金を置いておくので無駄遣いしないで食べてね。

あと火には気をつけて。

また戻ってくるから待ってて。

「佐々木由香より」

泣いた。あの日は二重のショックで泣いた。ひとつはこれ。先生がいなくてまたひとりの生活になってしまったこと。でもそう感じた時、自分は先生を利用していただけだと思った。悲しみ、寂しさを忘れるために先生を使っていた。

そう思うと余計に悲しくなり、自分が腹立たしかった。

でもショックはもうひとつあった。あの篠原の「手紙」だ。

あれのせいで、いじめに積極的に参加していた奴らは生きた心地がしないだろう。

俺は家がばれていないからいいけど、他の奴らはいつどうなるかわからない。

そんな日常の出来事を今、ネットに書いて寂しさと恐怖を紛らわしている。

先生、あなたはどこにいますか？

先生、もう一度あなたの手料理が食べたいです。

先生、先生、先生……。

生徒 中野雄太の証言1（後書き）

感想よかったです。ありがとうございます。
次回への励みになります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7304y/>

復讐

2011年11月21日23時47分発行